

ListenTALK

ユーザーマニュアル

日本語



LISTEN
TECHNOLOGIES 
www.listentech.com

お客様

Listenをお選びいただき、ありがとうございます。Listenでは高品質の製品をお届けし、お客様が満足できるように努めます。

製品それぞれを最大限保証します。

設置や運営上で発生した疑問に関してすべてお答えします。

Listenではお客様のご意見に耳を傾けて真摯に対応いたします。

連絡先:



松田通商株式会社

本 社 〒107-0062 東京都港区南青山 3-3-15 MTC ビル
TEL : 03-5413-4611 FAX : 03-5413-4618
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 3-8-15 EPO 新大阪ビルディング 903
TEL : 06-6101-2822 FAX : 06-6101-2823

Mail. inquiry@mtc-japan.com

<https://mtc-japan.com>

ありがとうございます。引き続き製品をお楽しみください。

Russell GentnerとListenチームより

LISTEN
TECHNOLOGIES

目次

4	イントロダクション
5	重要事項
6	重要安全確認事項
7	ListenTALKコンポーネンツ
8	ListenTALK詳細説明
9	LK-1クイックレファレンス
11	LKR-11クイックレファレンス
13	LKR-12クイックレファレンス
15	ドッキングステーショントレー クイックレファレンス
17	スペック
23	システムセットアップ
25	ユニット-一般使用
26	システムトークバックモード
27	ListenTALKセキュリティー
27	ユニットプログラミング
30	ドッキングステーション 操作方法
31	高度な機能
31	ソフトウェア
31	アクセサリー
32	アプリケーション
36	システムのトラブルシューティング
37	コンプライアンス情報
35	保証
39	連絡先

イントロダクション

ListenTALK（LK-1, LKR-11, LKR-12）と関連アクセサリはモバイルまたは常在、一方向または双方向ワイヤレスコミュニケーションシステムです。トレーニング、コラボレーション、ツアー、同時通訳、イベントプロダクション、インターカムなどの用途に最適です。

この製品はプライベート用でも商業用としても使用いただけます。

簡単に汎用性が高い

ListenTALKのシステムは簡単に設定でき、汎用性も高いです。ListenTALKのグループの作成にはドッキングステーション内のボタン一つ・Software Suiteのクリッカー一つ・内蔵のNFCを使った3通りの方法があります。アメリカと日本バージョンでは最大20グループ、ヨーロッパバージョンでは最大30まで同時に作成可能です。

ListenTALKのトランシーバーは操作が簡単でリーダーは参加者のモードを3つから選択できます。

信頼性とセキュリティー

混雑している2.4GHzと比べ、ListenTALKは1.9GHzを使用しています。またフルデュプレックス仕様、周波数ホッピングスペクトラム拡散技術を使用し、信頼性を高めるとともに干渉を減らします。ヘッドセットは場面に応じて選択いただくか、自前のも使用可能です。

ListenTALKは複数のセキュリティープロトコルを使用しています。40-bitグループサブスクリプション、32-bit承認と64-bit暗号化スキームを使い会話を保護します。

LISTENTALKへようこそ！

ListenTALKは簡単・汎用性・拡張性・安全性・信頼性があります！

重要事項

ListenTALKの使用前に必ず下記情報をお読みください。

シリアル番号、製造者などの情報は製品のバッテリーコンパートメントにあります。

バッテリーコンパートメントのアクセスタブを押し、バッテリードアを下げ、バッテリーを取り外すことにより情報を閲覧できます。ディスプレイでAboutメニューを表示させている時も閲覧可能です。

このデバイスは、制御されていない環境で身体に装着するポータブルデバイスに定められたRF曝露制限に準拠しており、ハンドヘルドまたはストラップや衣服にクリップで留めるなど、身体の横で安全に着用および操作できます。

リサイクル

環境保護にご協力ください。



製品のリサイクル方法

家庭用ごみとして処理しないでください。地域ごとの正しいリサイクル方法でリサイクルしてください。



電池のリサイクル方法

家庭用ごみとして処理しないでください。

地域ごとの正しいリサイクル方法でリサイクルしてください。

重要安全事項

ListenTALKの使用前に必ず下記情報をお読みください。

⚠ 注意事項

1. 下記使用上の注意とマニュアルをお読みください。
2. この安全事項とマニュアルは捨てないでください。他の人に貸し出しを行う場合、マニュアルなどもつけてください。
3. 注意事項には従ってください。
4. 手順を守ってください。
5. 長時間直射日光に当てないでください。
6. ストーブや熱を発する製品の近くに保管しないでください。
7. 修理は必ず資格のある代理店等にお出してください。通常通り機能しない、雨にさらした、落下した場合は修理が必要です。

⚠ 注意事項

聴力を守る

この製品は使い方により耳の聞こえを悪くする可能性があります。聴力を守るためにヘッドセットを着用前に音量が下がっていることを確認してください。着用後徐々に音量を上げてください。

子供などが使用する場合は必ず見守ってください。

⚠ 注意事項

医療器具の安全性

このListen製品を埋め込み型またはその他の医療機器で使用する前に、医師または埋め込み型またはその他の医療機器の製造元にご相談ください。医師または製造元によって確立された安全ガイドラインに従って、この製品を使用していることを常に確認してください。

⚠ 注意

リチウムイオン電池の安全手順

この製品はリチウムイオン電池3.7V 1200mAhを使用しています。付属しているバッテリーまたはNP-60バッテリーのみを使用ください。

バッテリーの解体は行わないでください。

製品と使用するための充電器以外で充電しないでください。

処分の際、必ずリチウムイオン電池のリサイクルを行ってください。バッテリーは燃やさないでください。

引火性の液体やガスがある部屋でバッテリーの交換は行わないでください。

リチウムイオン電池の寿命は限られています。膨れ上がりなどを含めるダメージを負ったバッテリーはすぐに正しく処分してください。

LISTENTALKのコンポーネンツ

ListenTALK

ListenTALKとは機種を含んだListenTALK総称を表します。



LK-1 ListenTALKトランシーバー

LK-1はListenTALKグループ内でオーディオの送受信が可能なユニットです。LK-1トランシーバーはグループリーダー・サブリーダー・参加者ユニットのどれにでも使用できます。



LKR-11 ListenTALKレシーバープロ

LKR-11 ListenTALKレシーバープロは参加者ユニットのみとしてオーディオの受信が可能なユニットです。LKR-11 は全機能を持った受信のみのユニットです。



LKR-12 ListenTALKベーシックレシーバー

LKR-12 ListenTALKレシーバーベーシックは参加者ユニットのみとしてオーディオの受信が可能なユニットです。LKR-12 は一部機能を持った受信のみのユニットです。



Docking Station Tray 16

オプションのListenTALK Docking Station Tray 16はトランシーバーの保管・プログラミング・充電が行えます。Docking Station Trayを使えばグループの作成や他のタスクが行いやすくなります。



アクセサリ

ListenTALKアクセサリにはDocking Station Tray 16用ケーブルマネジメントユニット、ヘッドセット、保護ケース、電池ケースなどがあります。通常のスマートフォン用ヘッドセットもListenTALKトランシーバーと一緒に使用可能です。



ListenTALK Software Suite

Windowsパソコンで使用でき、Software SuiteはListenTALKのペアリングやグループ作成、ステータス確認などのプログラミングが行えます。（P31参照）

LISTENTALK 定義

ListenTALK グループ

ListenTALK グループは2台もしくはそれ以上の台数がペアリングされたユニットを指します。

ペアリング

ペアリングとはListenTALKユニットがグループになるプロセスを指します。ListenTALKユニットはNFC・ドッキングステーション・Software Suiteのいずれかでペアリングが行えます。

リーダー・サブリーダー・参加者

グループは1つのリーダー、複数のサブリーダー（オプション）、1つ以上の参加者から成り立ちます。ミュージアムのツアーなどではガイドがリーダーになり、アシスタントガイドがサブリーダー、ツアー参加者が参加者となります。

ListenTALK セキュリティー

ListenTALKグループ内の会話は独自の暗号化ペアキーがあります。グループを分けることができ、グループ内の会話が聞かれることはありません。ペアキーはグループリーダーにより作成され、サブリーダーと参加者に共有されます。（P27参照）



LK-1 LISTENTALKトランシーバークイックレファレンス

1 内部マイクroフォン

内部マイクroフォンは参加者が使用できます。よりよい結果を出すためにリーダーは外部マイクroフォン付きヘッドセットを使用するべきです。弊社サイトでヘッドセットや他アクセサリを選択できます。

2 グラフィックディスプレイ

グループ名/番号、充電状況、バッテリーの持ち、プロフィールモード、ソフトボタンメニュー、ボリュームレベルなどを表示します。

3 ソフトボタン

リーダー: 左ソフトボタンでシステムモードを選択できます。（オフモード、リーダーモード、グループモード。P26参照。）

右ソフトボタンはペアリングを開始します。両方のボタンはトランシーバーのプログラミングが行えます。（P28参照。）

参加者: ソフトボタンはトランシーバープログラミング時以外使用できません。

4 トークボタンとメニュー終了

リーダー: トークボタンを押すことによりマイクとミュート間をトグルできます。

参加者: 話すときにトークボタンを押し、ボタンを押さない時はミュートになります。

5 明るさセンサー

グラフィックディスプレイの明るさを周囲の明るさにより自動調整します。

6 取り外し可能なベルト/吊り下げ用クリップ

ランヤードを使用するときはベルトクリップの最上部に取り付けます。その後、長さ調整を行い、使用者の首から下げます。もしくはベルトクリップをユーザーのベルトに留めます。

7 充電式バッテリー (またはアルカリ電池)

ListenTALKの充電式バッテリーはドッキングステーションまたはマイクロUSBポート経由でUSB充電器と接続し、充電を行ってください。

オプションのアルカリ乾電池ケースを導入することにより、3本の単4アルカリ乾電池（充電式を除く）を使用することも可能です。

8 バッテリーコンパートメントへアクセス (タブを押し、下へ下げる)

バッテリーコンパートメントはユニットの背部にあるアクセスボタンを押し、バッテリードアをスライドしながら下げることによって開けられます。バッテリードアを閉めるには開ける動作を逆の手順で行います。

9 ニアフィールドアンテナ (ドア下)

リーダーをサブリーダーまたは参加者とペアリングを行えます。（P24参照。）



LK-1 クイックレファレンスは続きます。

- 10 マイクロUSB(充電と設定用)**
マイクロUSBをUSB充電器に繋ぎ、ListenTALKを充電します。Windowsパソコンへ繋ぎ、ListenTALK Software Suiteを使用し、ListenTALKのプログラミングを行います。
- 11 音量調整とメニューナビゲーション**
オペレーション:ヘッドセットの音量調整が行えます。
プログラミング:グラフィックディスプレイ内でナビ画面が表示されます。
- 12 3.5mmヘッドセット/マイクロフォンポート**
弊社おすすめのヘッドセットもしくは3.5mmステレオミニプラグのイヤフォンやヘッドセットをご利用ください。
- 13 リーダークリップ**
トランシーバーにリーダークリップを取り付け、リーダーまたはサブリーダーを作成します。参加者トランシーバーと区別します。
- 14 ステータスLED**
充電中ステータスLEDは点滅し、充電完了後LEDはついたままになります。リーダーまたはサブリーダーステータスLEDはトークボタンを押した後、赤に光り、ミュートを表します。
- 15 パワーボタンとメニューエンター**
ListenTALKの電源を入れるには1秒間ボタンを長押しします。電源を切るには3秒間長押しします。使用中軽く押すとステータススクリーンが表示されます。
- 16 底面部:ドッキングステーションと充電接点**
ドッキングステーションにListenTALKを置くと自動的に充電を始めます。ListenTALK Software Suiteが内蔵されたWindowsパソコンと連携することができます。



LKR-11 LISTENTALKレシーバープロ クイックレファレンス

- 1 グラフィックディスプレイ**
グループ名/番号、充電状況、バッテリーの持ち、プロフィールモード、ソフトボタンメニュー、ボリュームレベルなどを表示します。
- 2 ソフトボタン**
参加者:ソフトボタンはトランシーバーのプログラミング時以外使用できません。(P28参照。)
- 3 明るさセンサー**
グラフィックディスプレイの明るさを周囲の明るさにより自動調整します。
- 4 取り外し可能なベルト/吊り下げ用クリップ**
ランヤードを使用するときはベルトクリップの最上部に取り付けます。その後、長さ調整を行い、使用者の首から下げます。もしくはベルトクリップをユーザーのベルトに留めます。
- 5 充電式バッテリー(またはアルカリ乾電池)**
ListenTALKの充電式バッテリーはドッキングステーションまたはマイクロUSBポート経由でUSB充電器と接続し、充電を行ってください。
オプションのアルカリ乾電池ケースを導入することにより、3本の単4アルカリ乾電池(充電式を除く)を使用することも可能です。
- 6 バッテリーコンパートメントへアクセス(タブを押し、下へ下げる)**
バッテリーコンパートメントはユニットの背部にあるアクセスボタンを押し、バッテリードアをスライドしながら下げることによって開けられます。バッテリードアを閉めるには開ける動作を逆の手順で行います。
- 7 ニアフィールドアンテナ(ドア下)**
リーダーをサブリーダーまたは参加者とペアリングを行います。(P24参照。)



LKR-11 クイックレファレンスは続きます。

- 8 **マイクロUSB (充電と設定用)**
マイクロUSBをUSB充電器に繋ぎ、ListenTALKを充電します。Windowsパソコンへ繋ぎ、ListenTALK Software Suiteを使用し、ListenTALKのプログラミングを行います。
- 9 **音量調整とメニューナビゲーション**
オペレーション:ヘッドセットの音量調整が行えます。
プログラミング:グラフィックディスプレイ内でナビ画面が表示されます。
- 10 **3.5mmヘッドセット/マイクロフォンポート**
弊社おすすめのヘッドセットもしくは3.5mmステレオミニプラグのイヤフォンやヘッドセットをご利用ください。
- 11 **ステータスLED**
充電中ステータスLEDは点滅し、充電完了後LEDはついたままになります。
- 12 **パワーボタンとメニューエンター**
ListenTALKの電源を入れるには1秒間ボタンを長押しします。電源を切るには3秒間長押しします。使用中軽く押すとステータススクリーンが表示されます。
- 13 **底面部: ドッキングステーションと充電接点**
ドッキングステーションにListenTALKを置くと自動的に充電を始めます。ListenTALK Software Suiteが内蔵されたWindowsパソコンと連携することができます。



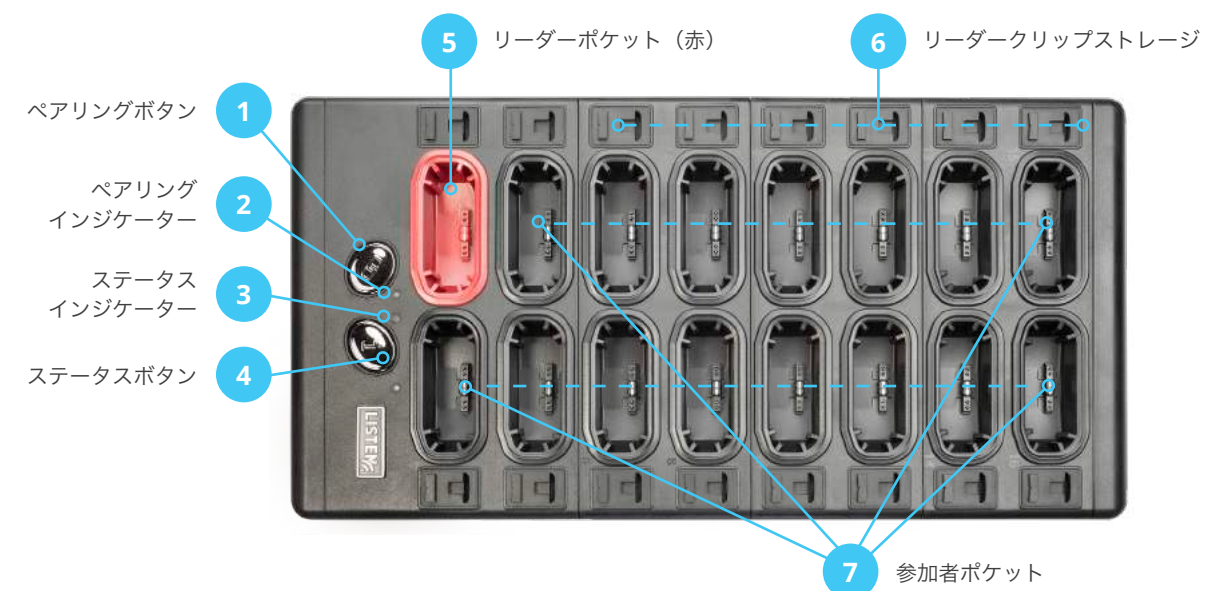
LKR-12 クイックレファレンス

- 1 **取り外し可能なベルト/吊り下げ用クリップ**
ランヤードを使用するときはベルトクリップの最上部に取り付けます。その後、長さ調整を行い、使用者の首から下げます。もしくはベルトクリップをユーザーのベルトに留めます。
- 2 **充電式バッテリー**
ListenTALKの充電式バッテリーはドッキングステーションまたはマイクロUSBポート経由でUSB充電器と接続し、充電を行ってください。オプションのアルカリ乾電池ケースを導入することにより、3本の単4アルカリ乾電池（充電式を除く）を使用することも可能です。
- 3 **バッテリーコンパートメントヘアクセス**
バッテリーコンパートメントはユニットの背部にあるアクセスボタンを押し、バッテリードアをスライドしながら下げることによって開けられます。バッテリードアを閉めるには開ける動作を逆の手順で行います。



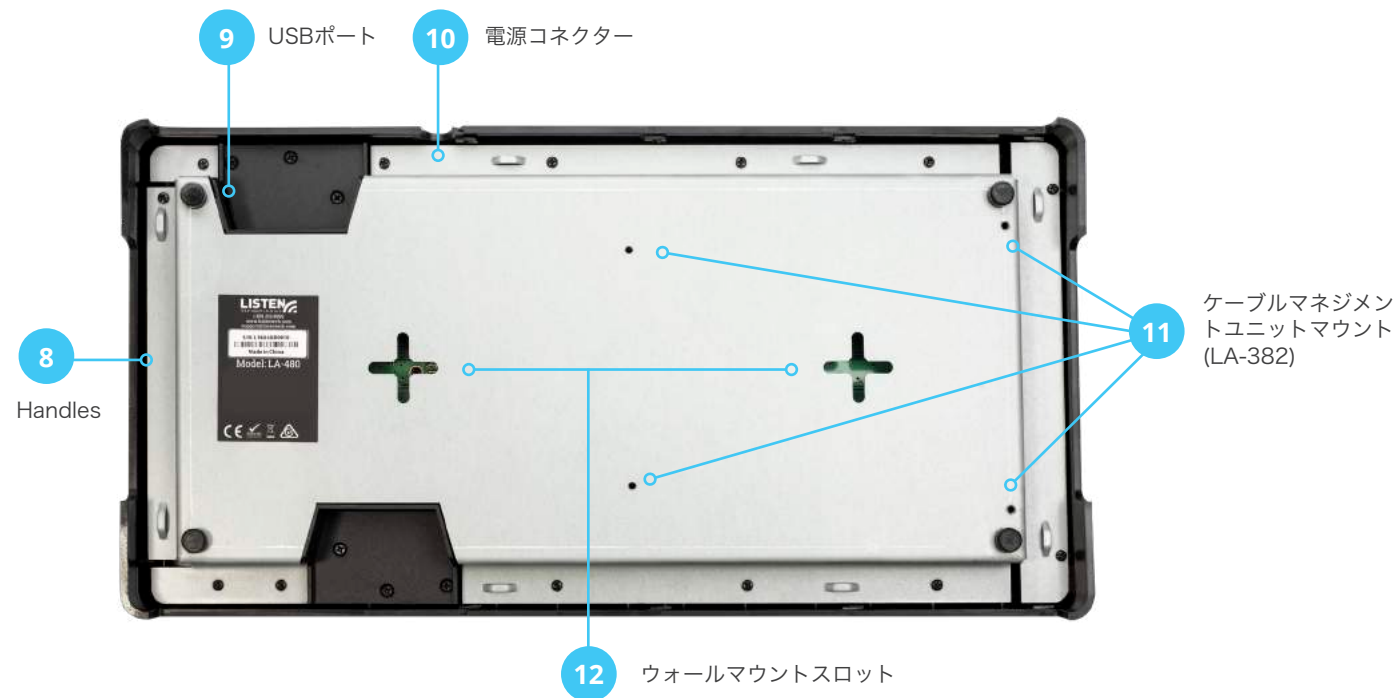
LKR-12 クイックレファレンス

- 4 マイクロUSB**
マイクロUSBをUSB充電器に繋ぎ、ListenTALKを充電します。Windowsパソコンへ繋ぎ、ListenTALK Software Suiteを使用し、ListenTALKのプログラミングを行います。
- 5 音量調整**
オペレーション: 音量調整が行えます。
- 6 3.5mmヘッドセット/マイクロフォン**
弊社おすすめのヘッドセットもしくは3.5mmステレオミニプラグのイヤフォンやヘッドセットをご利用ください。
- 7 ステータスLED**
充電中ステータスLEDは点滅し、充電完了後LEDはついたままになります。
電源ボタンを軽く押すとLEDでステータスを確認されます。ペアリングが済んでいる場合、LEDは緑に一度光り、バッテリーステータス次第で白く光ります。1回=1/4, 2回=1/2, 3回=3/4, 4=フル充電
メモ: LKR-12 緑のLEDはペアリングが行われていないもしくはリーダーユニットがオンになっていない場合、点滅し続けます。
- 8 パワーボタン**
LKR-12の電源を入れるには1秒間ボタンを長押しします。電源を切るには3秒間長押しします。使用中軽く押すとステータスLEDが表示されます。
- 9 ドッキングステーションと充電接点**
ドッキングステーションにListenTALKを置くと自動的に充電を始めます。ListenTALK Software Suiteが内蔵されたWindowsパソコンと連携することができます。



LISTENTALK DOCKING STATION TRAY クイックレファレンス

- 1 ペアリングボタン**
ListenTALKグループを作成するにはLK-1トランシーバーをリーダーポケット (赤) に差し込み、他のユニットを参加者ポケットに差し込みます。ドッキングステーションのペアリングボタンを押します。
メモ: ドッキングステーションのペアリングボタンを押すとリーダーの既存のペアリングキーを使用します。新しくペアリングキーを作成するにはペアリングボタンを5秒間長押しします。(P24参照。) 新しいグループを作成し、前にペアリングされたユニットをグループから削除します。
- 2 ペアリングインジケータ**
ペアリングインジケータはペアリング中点滅し、ペアリング完了後は一旦光り続け、その後消えます。ペアリングとステータスインジケータは同時に光り続け、新しいペアキー作成の際は消えます。(P30参照。)
- 3 ステータスインジケータ**
ステータスインジケータはステータスボタンが有効で新しいペアキー作成時に光ります。
- 4 ステータスボタン**
ステータスボタンを長押しし、ListenTALKのグラフィックディスプレイ上でグループ情報と個別情報を確認します。
- 5 リーダーポケット (赤)**
充電・ペアリング・プログラミングで使用します。
- 6 リーダークリップストレージ**
ストレージタブに使用しないリーダークリップを取り付けられます。
- 7 参加者ポケット**
充電・ペアリング・プログラミングで使用します。



LISTENTALK DOCKING STATION TRAY QUICK REFERENCE

- 8 Handles**
ドッキングステーション用持ち手。
- 9 USBポート**
Windows/パソコンをプログラムへ接続し、Software Suiteを通じてユニットの数量管理が行えます。
- 10 電源コネクター**
電源サプライをこの電源コネクターとケーブルへ接続し、ACタップへ接続します。(100/240VAC 50/60Hz)
- 11 ケーブルマネジメントユニットマウント (LA-382)**
オプションのDocking Station Intelligent Cable Management Unitのための穴です。
- 12 ウォールマウントスロット**
1/4" のスクリー2つを6インチ離して壁へマウントします。ドッキングステーション16をスクリー
の頭へ乗せます。

LK-1 LISTENTALKトランシーバーのスペック

一般

寸法(H×W×D)ベルトクリップ含む	10 x 5.4 x 2.4 cm (3.93 x 2.13 x 0.93 in.)
重量	79 g (2.79 oz.)
総重量	206 g (7.20 oz.)と最低限454 g (1.0 lbs.)
外構素材	プラスチック
インジケーター	ディスプレイ-64×128OLED 明るさ調整LED-赤/白マルチ機能(ミュート・ステータス変更)
ユーザーコントロール	音量上げ下げ、トーク、電源/ステータス、トークモード、ペアリング
プログラミング	ソフトウェアとトランシーバーのUSBポート経由またはソフトウェアとドッキングステーションのUSBポート経由で
接続	ヘッドセット-3.5mm TRRS/CTIA対応 USB-マイクロUSB、制御と充電 充電器-4箇所、制御と充電

オーディオ

マイクロフォン入力	
互換性	エレクトレット、外部バイアス
バイアス	3V 最大2mAカレント
感度要件	-28~-50dBV/Pa
内部マイクロフォン	
スイッチング	ジャック挿入時の自動検出または手動
最大入力レベル	109 dB SPL
ゲイン	調整可能、30dBの範囲で
ヘッドセット/マイクロフォンポート	
理由	Listen Technologies社のヘッドセットまたはスマートフォン用ヘッドセット マイク/ライン入力として使用可能(P26 マイクセレクトメニューを参照。)
コネクター	 ヒント 最初のリング セカンドリング マイク/ライン入力+ ヘッドセット左+ ヘッドセット右+ コモン/グラウンド/スリーブ
ラインソースのノミナル入力レベル	-10dBu (0.24ボルト)
スピーカー負荷	16 -32 ohm負荷
最大出力電力	67 mW、16オームの負荷、クリッピングのしきい値
再度トーン	調整可能
システム	
周波数特性	40 Hz~15 kHz +/- 3dB、2kHzローパスフィルター
SNR	70dB、A- 加重クリッピングのしきい値
THD	0.5% A 1kHz、22kHzローパス適応時

LK-1 トランシーバー続き

ラジオ

動作周波数	1920～1930 MHz – アメリカ 1880～1900 MHz - ヨーロッパ、オーストラリア 1895～1905 MHz – 日本
平均パワー	4 mW – アメリカ 10 mW - ヨーロッパ、オーストラリア 5 mW – 日本
典型的な範囲	日本、アメリカでは室内100m、屋外200m ヨーロッパ、オーストラリアでは室内150m、屋外300m ※場合によっては変わります。
変調	GFSK – FHSS TDD/TDMA/DCA
セキュリティ	サブスクリプション-40bit (ピンフリー) 認証-32bit 暗号化-64bit
NFC周波数	ニアフィールドコミュニケーション 13.56MHz

電力とバッテリーマネジメント

バッテリー種類	リチウムイオン電池、充電式独自仕様でない取り外し可能、1200mAh オプション-単四アルカリ乾電池×3個用ケース
運営時間	リチウムイオン電池-参加者モード-12時間 アルカリ乾電池-参加者モード-7時間 リチウムイオン電池-リーダーモード-7時間 アルカリ乾電池-リーダーモード-4時間
充電時間	4時間
省エネモード	シグナルを失った時 ヘッドセットが外された時 (1分) 充電時

環境

温度-操作	-10°C (14°F)～40°C (104°F)
温度-保管	-20°C (-4°F)～50°C (122°F)
湿度	湿度0～95%、結露していないこと

コンプライアンス

スタンダード	
--------	--

※変更の可能性あり

LKR-11 LISTENTALK レシーバープロのスペック

一般

寸法(H×W×D)ベルトクリップ含む	10×5.4×2.4 cm (3.93×2.13 ×0.93 in.)
重量	79 g (2.79 oz.)
総重量	206 g (7.20 oz.) と最低限 454 g (1.0 lbs.)
梱包材	プラスチック
インジケーター	ディスプレイ-64×128OLED 明るさ調整LED-赤/白マルチ機能 (ミュート・ステータス変更)
ユーザーコントロール	音量上げ下げ、トーク、電源/ステータス、トークモード、ペアリング
プログラミング	ソフトウェアとトランシーバーのUSBポート経由またはソフトウェアとドッキングステーションのUSBポート経由で
接続	ヘッドセット-3.5mm TRRS/CTIA対応 USB-マイクロUSB、制御と充電 充電器-4箇所、制御と充電

オーディオ

ヘッドフォン出力	
スピーカー負荷	16 -32ohm負荷
最大出力電力	67mW、16-ohm負荷 クリッピングのしきい値
理由	イヤースピーカー/ヘッドフォン接続可能
接続	 ヒント 最初のリング セカンドリング スリーブ ヘッドセット左+ ヘッドセット右+ コモン/グラウンド 未接続
システム	
周波数特性	40 Hz～15 kHz +/- 3dB、2kHzローパスフィルター
SNR	70dB、A- 加重クリッピングのしきい値
THD	0.5% A 1kHz、22kHzローパス適応時

LKR-11 LISTENTALK レシーバープロのスペック続き

ラジオ

動作周波数	1920～1930 MHz – アメリカ 1880～1900 MHz - ヨーロッパ、オーストラリア 1895～1905 MHz – 日本
平均パワー	4 mW – アメリカ 10 mW - ヨーロッパ、オーストラリア 5 mW – 日本
典型的な範囲	日本、アメリカでは室内100m、屋外200m ヨーロッパ、オーストラリアでは室内150m、屋外300m ※場合によっては変わります。
変調	GFSK – FHSS TDD/TDMA/DCA
セキュリティ	サブスクリプション-40bit(ピンフリー) 認証-32bit 暗号化-64bit
NFC周波数	ニアフィールドコミュニケーション 13.56MHz

電力とバッテリーマネジメント

バッテリー種類	リチウムイオン電池、充電式独自仕様でない取り外し可能、1200mAh オプション-単四アルカリ乾電池×3個用ケース
運営時間	リチウムイオン電池-参加者モード-12時間 アルカリ乾電池-参加者モード-7時間
充電時間	4時間
省エネモード	シグナルを失った時 ヘッドセットが外された時(1分) 充電時

環境

温度-操作	-10°C(14°F)～40°C(104°F)
温度-保管	-20°C(-4°F)～50°C(122°F)
湿度	湿度0～95%、結露していないこと

コンプライアンス

スタンダード	
--------	--

※変更の可能性あり

LKR-12 LISTENTALK レシーバークラスICのスペック

一般

寸法(H×W×D)ベルトクリップ含む	10 x 5.4 x 2.4 cm (3.93 x 2.13 x 0.93 in.)
重量	79 g (2.79 oz.)
総重量	206 g (7.20 oz.) と最低限 454 g (1.0 lbs.)
梱包材	プラスチック
インジケーター	明るさ調整LED-緑/白マルチ機能(ミュート・ステータス変更)
ユーザーコントロール	音量上げ下げ、トーク、電源/ステータス、トークモード、ペアリング
プログラミング	ソフトウェアとトランシーバーのUSBポート経由またはソフトウェアとドッキングステーションのUSBポート経由で
接続	ヘッドセット-3.5mm TRRS/CTIA対応 USB-マイクロUSB、制御と充電 充電器-4箇所、制御と充電

オーディオ

ヘッドフォン出力	
スピーカー負荷	16 -32ohm負荷
最大出力電力	67mW、16-ohm負荷 クリッピングのしきい値
理由	イヤースピーカー/ヘッドフォン接続可能
接続	 ヒント 最初のリング セカンドリング スリーブ ヘッドセット左+ ヘッドセット右+ コモン/グラウンド 未接続
システム	
周波数特性	40 Hz～15 kHz +/- 3dB、2kHzローパスフィルター
SNR	70dB、A- 加重クリッピングのしきい値
THD	0.5% A 1kHz、22kHzローパス適応時

LKR-11 LISTENTALK レシーバーベーシックのスペック続き

ラジオ

動作周波数	1920～1930 MHz - アメリカ 1880～1900 MHz - ヨーロッパ、オーストラリア 1895～1905 MHz - 日本
平均パワー	4 mW - アメリカ 10 mW - ヨーロッパ、オーストラリア 5 mW - 日本
典型的な範囲	日本、アメリカでは室内100m、屋外200m ヨーロッパ、オーストラリアでは室内150m、屋外300m ※場合によっては変わります。
変調	GFSK - FHSS TDD/TDMA/DCA
セキュリティ	サブスクリプション-40bit(ピンフリー) 認証-32bit 暗号化-64bit

電力とバッテリーマネジメント

バッテリー種類	リチウムイオン電池、充電式独自仕様でない取り外し可能、1200mAh オプション-単四アルカリ乾電池×3個用ケース
運営時間	リチウムイオン電池-参加者モード-12時間 アルカリ乾電池-参加者モード-7時間
充電時間	4時間
省エネモード	シグナルを失った時 ヘッドセットが外された時(1分) 充電時

環境

温度-操作	-10°C(14°F)～40°C(104°F)
温度-保管	-20°C(-4°F)～50°C(122°F)
湿度	湿度0～95%、結露していないこと

コンプライアンス

スタンダード	
--------	--

※変更の可能性あり

LISTENTALK DOCKING STATION CASE 16の寸法

一般

ケースの色	グレーとクローム
トレーの色	黒、クロームボタン、赤のリーダーポケット
寸法(H×W×D)	190×350×465mm(7.48 x 13.78 x 18.31 in.)
ユニットキャパシティー	16ユニット
ユニット重量	5.13 kg (11.3 lbs.)
総重量	5.95 kg (13.1 lbs.)

電力

電源サプライ入力	100-240VAC / 50～60Hz
電源サプライ出力	12VDC, 5.0A, 60W
電源サプライ接続	5.5mmOD×2.3mmID、樽型
電源コード	182.9cm-入力電源コード 109.2cm-出力コード

相互接続

接続	USBタイプB
	電源

コンプライアンス

電源サプライ	UL, CE, RCM, RoHS
--------	-------------------

※変更の可能性あり

LISTENTALKシステムのセットアップ



ドッキングステーションをマウントし、接続する

ListenTALKトランシーバーは、ドッキングステーションの有無にかかわらず操作できます。システムにドッキングステーションがない場合は、「各ListenTALKトランシーバーの準備と充電」(次へ)に進んでください。ドッキングステーションを平らな面にマウントします。電源をドッキングステーションと標準のACコンセント(100/240 VAC、50/60 Hz)に接続します。コンピュータ(USB)を介してドッキングステーションとそのユニットをプログラムするには、ListenTALK Software Suiteをインストールします。(P31を参照)

LISTENTALK システム



ListenTALK ユニットの準備と充電

スクリーン用シートと絶縁シートをそれぞれのユニットから取り外します。ドッキングステーションまたはUSBチャージャー経由で充電します。充電が100%になるとユニットのステータスLEDは常に光ります。アルカリ乾電池を使用する場合は、オプションのアルカリ乾電池用ケースに単四電池を3本入れてください。



ListenTALK リーダーを作成

LK-1トランシーバーはリーダーまたは参加者のいずれかになります。デフォルトは参加者です。リーダーを作成するにはトランシーバーに赤のリーダークリップを取り付けます。サブリーダーを作成するにはリーダークリップをLK-1に取付後、リーダーユニットとペアリングしてください

ListenTALK ユニットのペアリングを通してグループを作成

ListenTALK グループは1人のリーダーと参加者・サブリーダーで構成されています。(サブリーダーはオプション。) グループの作成にはリーダーユニットと参加者・サブリーダーをペアリングします。

ドッキングステーションとのペアリング

リーダーユニットをドッキングステーションの赤いポケット内に入れます。参加者・サブリーダーユニットは黒いポケット内に入れます。(P15の図参照) ドッキングステーションのペアリングボタンを押します。ペアリングインジケータはペアリング中点滅し、最後に一度常光します。ペアリング完了後、光は消えます。15台以上のユニットをペアリングするためには同じリーダーユニットを使い、手順を繰り返します。

メモ: ペアリングボタンが5秒間以上長押しされた場合、リーダーユニットは新しいペアキーを作成し、前にペアリングされたユニットをグループから削除します。

ドッキングステーションなしでのペアリング-NFC方式(LK-1とLKR-11のみ)

リーダーユニットの右ソフトボタンを長押しし、ペアリングモードにします。リーダーユニットの背面に参加者・サブリーダーユニットをタッチし、ペアリングを行います。ペアリングが成功した後、参加者・サブリーダーユニットは音を鳴らし、ディスプレイでリンクのシンボルが表示されます。リーダーユニットの右ソフトボタンをもう一度長押しするとペアリングモードをやめます。

ListenTALK の追加グループを作成

ListenTALK グループはペアリングを行うことで無制限に作り出せます。アメリカと日本バージョンでは最大20グループ、ヨーロッパバージョンでは最大30まで同時に作成可能です。

既存グループに参加者を追加

ドッキングステーションの場合、リーダーユニットをリーダーポケットに入れ、参加者ユニットもドッキングステーションに入れます。ペアリングボタンを押すとペアリングは完了します。ドッキングステーションなしで参加者を追加するにはリーダーをペアリングモードにし、背面と追加したいユニットをタッチします。(LKR-12では使用不可)

イヤースピーカーまたはヘッドセットへ接続

ヘッドセット・イヤースピーカー・ヘッドフォンとユニットを接続します。参加者はLK-1内蔵マイクロフォンを使用できます。リーダーとサブリーダーは雑音が多い環境下ではマイクロフォン込みのヘッドセットを使用してください。

LISTENTALK ユニット-基本のオペレーション

一般オペレーション

ベルトクリップとランヤード

ランヤードを使用するには金属部を開け、ベルトクリップに取り付けます。長さを調整し、ユーザーが身に着けます。もしくはユーザーのベルトにベルトクリップで取り付けます。

電源ボタン

電源ボタンを1秒間押し、ユニットの電源をつけます。3秒間押し、電源を切ります。ユニットに電源が入っている間、電源ボタンを押すことによりユニットのステータスを3秒間表示します。

音量ボタン

音量調整のためにボリュームアップもしくはボリュームダウンボタンを押します。

LK-1またはLKR-11ディスプレイとステータス

ディスプレイは数秒後に自動的に消えます。電源ボタンを一時的に押すことでユニットステータスを確認できます。どのボタンを押すことでもディスプレイで表示させることができます。ディスプレイが消えていても機能ボタンは通常通り稼働します。

バッテリーステータス、充電、バッテリー交換

ユニットの充電が必要の際はステータスLEDはゆっくり点滅します。ドッキングステーションでユニットの充電は可能です。それぞれのユニットを充電する際にはマイクロUSBポート経由でUSBチャージャーに接続します。オプションのアルカリ乾電池ケースを使用したバッテリー交換にはバッテリードアを押し、バッテリーコンパートメントを開けます。3本の単4アルカリ乾電池を入れます。

内蔵マイクロフォン(LK-1のみ)

静かな環境ではリーダーと参加者はトランシーバーの内蔵マイクロフォンを使えます。マイクロフォン付きのヘッドセットは雑音が多い環境に適しています。詳しくは弊社にお問い合わせください。

参加者ボタン(LK-1のみ)

トークボタンを押しながら話せます。ボタンから指を離すとミュートになります。トークバックモードにより、参加者はグループ全体もしくはリーダーのみと会話することができます。(P26参照) リーダーが”Off”モードを選択すると参加者トークボタンは機能しません。一度に話することができる参加者は1人で、ソフトボタンは参加者ユニットでは機能しません。

リーダーボタン(LK-1のみ)

トークボタンを押して離すことによりトークとミュート間をトグルします。リーダーのトークボタンは常に押す必要はありません。リーダーはListenTALK のトークバックモードを設定できます。(P26参照) また、リーダーはグループペアリングを管理し、グループ名とペアキーをサブリーダーと参加者に伝えます。

サブリーダーボタン(LK-1のみ)

サブリーダーのトークボタンはリーダーのトークボタンと同様に働きます。サブリーダーは新たにサブリーダーと参加者をペアリングすることができ、グループに追加できます。サブリーダーはグループ名とペアキーをリーダーから受け、他ユニットへ伝えます。

ペアリング
ボタン



リーダーとサブリーダーのオペレーション

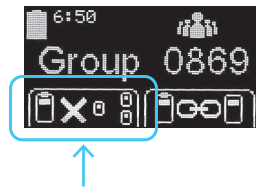
ListenTALK グループは1人のグループリーダーと複数のサブリーダーと参加者ユニットで成り立ちます。2人先生体制のクラスや2人ガイド制ツアーグループで1人のサブリーダーがいると役立ちます。イベント・スポーツ・セッション・工場・工事現場などでは1人のリーダー、複数のサブリーダーが必要な場合、ワイヤレスインターカムとして役立ちます。サブリーダーは新たにサブリーダーと参加者をペアリングすることができ、グループに追加できます。サブリーダーはグループ名とペアキーをリーダーから受け、他ユニットへ伝えます。

LISTENTALK システム トークバックモード

ListenTALK システムはリーダーがグループごとに必要な設定ができます。リーダーの左ソフトボタンを押すことにより、トークバックモード間をトグルできます。3つのトークバックモードはオフ/リッスン専用モード、リーダー/応答モード、グループ/ディスカッションモードです。

この3つのモードはリーダー設定の” Subleader Always Broadcast”（デフォルトではオン）により機能が異なります。「サブリーダーは常時ブロードキャスト」モードはListenTALK Software Suiteのみで無効にできます。

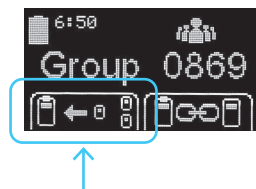
リーダーのグラフィックディスプレイにはトークバックモードの種類が分かります。（下記参照）トークバックモードではリーダーと話ができるのは1人の参加者またはサブリーダーです。



オフ/リッスン専用モード-リーダーのディスプレイにはXはありますが、矢印がない表示

サブリーダー常時ブロードキャストモードが有効-リーダーとサブリーダーはお互いに話ことができ、参加者にも話することができますが、参加者は応答できません。

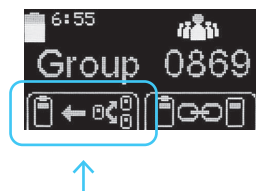
サブリーダー常時ブロードキャストモードが無効-リーダーはサブリーダーと参加者に話することができますが、サブリーダーと参加者は応答できません。



リーダー/応答モード-リーダーのディスプレイには左矢印が表示

サブリーダー常時ブロードキャストモードが有効-リーダーとサブリーダーはお互いに話ことができ、参加者にも話することができます。参加者はリーダーのみに話することができます。参加者が話したい場合で2人のサブリーダーが話している場合はどちらかがミュートし、トークバックチャンネルを開放しなければなりません。

サブリーダー常時ブロードキャストモードが無効-リーダーは参加者にも話することができます。サブリーダーと参加者はリーダーのみに話することができます。参加者が話したい場合で2人のサブリーダーが話している場合はどちらかがミュートし、トークバックチャンネルを開放しなければなりません。



グループ/ディスカッションモード-リーダーのディスプレイには左右の矢印が表示

サブリーダーと参加者はリーダーと他のグループメンバーに発言でき、発言を聞くことができます。グループ/ディスカッションモードでは”サブリーダー常時ブロードキャストモードが有効無効に関わらず、同じように機能します。2人のサブリーダーが話している場合はどちらかがミュートし、トークバックチャンネルを開放しなければなりません。

LISTENTALK セキュリティ

ListenTALK グループ内の会話はペアキーにより暗号化され、グループが変わることなく、安全性が保たれています。ペアキーはグループのリーダーにより作成され、各サブリーダー・参加者に共有されます。サブリーダーがグループに新しいユニットを追加するとき、リーダーのペアキーを新しいグループユニットに伝えます。

ListenTALK ペアキーセキュリティはListenTALK Software Suiteまたはリーダーの新しいペアキーメニュー（次項目参照）から設定できます。

なし-通常のセキュリティ(デフォルト)

この（デフォルト）選択により、ペアキーはグループ内で変更することはありません。グループ内での安全な通信が可能になると同時に、グループの無制限の拡張が可能になり、ツアーごとに参加者の数が異なる美術館などの会場に適しています。

8時間、4時間、1時間-高めのセキュリティ

この選択により、ペアキーは選択した時間枠内でグループを拡張するときに、既存のペアキーが維持されます。時間枠の期限が切れた後、リーダーはサブリーダーまたは参加者とペアリングして新しいグループの一部にするときに、新しいペアキーを生成します。これにより、既存のグループの拡張は選択した時間枠内でのみ可能になります。

いつも-最高のセキュリティ

この選択では毎回リーダーがサブリーダーまたは参加者とペアになって新しいグループの一部になるときに、常に新しいペアキーを生成します。これにより、既存のグループの拡張が無効になり、セキュリティの高い場面に最適です。

グループのペアキーのリセット

グループ名を変えずに、グループキーのリセットできます。ユニットをなくした場合など、ユニットをグループから外したい場合に便利です。

ListenTALK グループのペアキーのリセットにはリーダー・サブリーダー・参加者のユニットをドッキングステーションポケットにそれぞれ入れます。ドッキングステーションのペアリングボタンを5秒間押します。ペアリングとステータスインジケーターは一度光り、成功を意味する常時点灯に代わります。ListenTALK Software Suiteでもこのプロセスを行えます。

ドッキングステーションがないListenTALK グループでのペアキーをリセットするにはリーダーの新しいペアキーメニューの選択を”Always”にします。NFCペアリングをグループ内の全ユニットに行います。

メモ: ドッキングステーションとSoftware Suiteを使用した新しいペアキーの作成はリーダーの新しいペアキーメニューの選択に関わらず行えます。

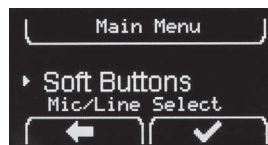
LISTENTALK UNIT PROGRAMMING

ListenTALK ユニットはドッキングステーションに置き、ListenTALK Software Suiteが導入されたWindowsパソコンにドッキングステーションUSBポートを接続することによりプログラミングが行えます。ListenTALK ユニットを1台だけプログラミングする場合は、ListenTALK Software Suiteが導入されたWindowsパソコンのUSBポートとユニットのマイクロUSBを接続することで行えます。また、ユニット上では特定のボタンを押すことでもプログラミングを行えます。プログラミングの選択は下記を参照してください。

パソコンを介せずにListenTALK ユニットのプログラミング

ListenTALK トランシーバーのメニューにアクセス

ユニットの電源を入れます。電源ボタンと音量を下げるボタンを同時に約3秒押すことによりプログラミングメニューにアクセスできます。ディスプレイ上では” Main Menu” と表示されます。ユニットは20秒間動きがない場合、メニューを自動的に閉じます。.



メニューの操作

メニューアイテムを音量調整ボタンで上下にスクロールします。ディスプレイは現在のメニューアイテムを大きい字体で表示します。前後のメニューは現在のメニューより小さな字体で上下に表示されます。

アイテムメニューを選択するには右ソフトボタンを押します。その後、メニューアイテムのオプションを音量調整ボタンでスクロールします。オプションを選択するには右ソフトボタンを押します。メニューアイテムには☒アイコンが表示され、選択の確認をします。左ソフトボタンを押すとこのメニューを閉じます。

ListenTALK ユニットのメニューを閉じる

トランシーバーのメニューを閉じ、変更を保存するには左ソフトボタンを2度押します。ディスプレイは” Updated” と表示され、変更が保存したことが確認できます。

ユニットメニュー選択

ソフトボタン(LK-1のみ)

全ロック解除(デフォルト): ロック解除し、リーダーがソフトボタン機能にアクセスできます。

すべてロック: ソフトボタン機能をロックし、リーダーがアクセスできないようにします。

トークバックのみロック: トークバックソフトボタンをロックし、ペアソフトボタンをロック解除します。

ペアのみロック: ペアソフトボタンをロックし、トークバックソフトボタンをロック解除します。

マイク/ライン選択(LK-1のみ)

自動(デフォルト): 自動で外部マイクがあれば選択、なければ内蔵マイクを選択します。

内部: ListenTALK の内蔵マイクロフォンを強制的に使用します。

外部: 外部マイクロフォンを強制的に使用します。

ライン: 外部-10dBuラインレベルソースを使用できるようにします。

マイク/ラインゲイン(LK-1のみ)

自動(デフォルト): トランシーバーの内部マイクとほぼ全ての外部マイクに対応

数字: 手動で外部マイクまたはラインレベルのゲインを調整するには3dB刻みで最大±12dBをスクロールできます。

明るさ

自動(デフォルト): ListenTALK のライトセンサーを使い、ディスプレイの明るさの調整をします。

明るくまたは暗く: ディスプレイの明るさを固定します。

オフ: 通常使用時、ディスプレイをオフにします。(ボリューム調整、トークボタンは使用可能)



自動電源

オン(デフォルト): ユニットはドッキングステーションに入れると自動的に電源が切れ、充電します。ドッキングステーションから取り外すと自動的に電源が入ります。

オフ: ユニットの電源を手動でコントロールします。

自動オフ

30分(デフォルト): ユニットの電源は使用後30分後に切れます。(リーダーへのリンクなし)

20分または10分: ユニットの電源は使用後20分または10分後に切れます。

オフ: 自動オフ機能を無効にします。

Jacksense

オン(デフォルト): ユニットにヘッドセットを接続するとユニットの電源が入ります。ヘッドセットを取り外すとユニットの電源が切れます。

オフ: ユニットのオン/オフステータスを手動でコントロールします。

サイドトーン(LK-1のみ)

ノーマル(デフォルト): ヘッドセットで話した時、自分の声を通常の音量で聞き取ることができます。

静かまたはうるさい: ヘッドセットで話した時、自分の声の音量を調整します。

新しいペアキー(LK-1のみ)

このメニューはリーダーユニットのみで機能し、ListenTALK の新しいペアキーセキュリティをコントロールします。詳しいセキュリティなどはP27を参照。

同時通訳(LK-1のみ)

オフ(デフォルト): 同時通訳機能をオフにします。ユニットは通常のリーダー・サブリーダー・参加者の機能として使用します。

オン: 同時通訳機能をオンにします。この機能が有効の場合、リーダークリップを付けたユニットはプレゼンター/メインフロアリーダーユニットとペアリングすると、同時通訳リーダーユニットになります(プレゼンター/メインフロアリーダーユニットがペアリングモードを開始します)。通訳者のリーダーとしてペアになっている場合、通訳者はヘッドセットスピーカーからメインフロアのリーダーの声を聞き、ヘッドセットマイクを介して自分のグループに同時通訳を送信します。

モード選択(LK-1のみ)

リーダークリップを使用(デフォルト): トランシーバーをリーダーにするためにリーダークリップを取り付けます。

リーダーを強制: リーダークリップなしでトランシーバーをリーダーにします。

言語

英語(デフォルト): メニューのデフォルト言語は英語です。

スペイン語、ドイツ語、フランス語、イタリア語: それぞれの言語でプリセットメニューを表示

デバイスのリセット

いいえ(デフォルト): グループ名やペアキーなど既存の選択を残します。

はい: はいを選択するとListenTALK を初期化します。

アバウト

アバウトメニューは各ユニットの情報を表示します。

モデル名・シリアル番号・ファームウェアバージョン・地域情報・コンプライアンス情報

ソフトウェアプログラムのみの機能

デフォルト音量(ソフトウェアプログラミングのみ、LK-1のみ) 35%(デフォルト)

番号: ListenTALK の電源が入るたびにヘッドセットの音量はデフォルトの35%になります。デフォルトの音量レベル設定を変更するにはソフトウェアでスライダーを好みのレベルに変更します、スライダーは5%刻みに5%～100%の間を変更できます。

リーダーミュートを無効(ソフトウェアプログラミングのみ、LK-1のみ)

☐ **デフォルト**): ボックスにチェックを入れないことによりこの機能は無効になります。通常の使用と変わらず、ユニットのトークボタンはリーダーのオーディオをミュート/ミュート解除します。

☒ このボックスにチェックが入ると、この機能は有効になり、トークボタンは使用できません。このモードではユニットは常時ミュート解除となり、リーダーのオーディオをミュートにすることはできません。

メモ: この機能が有効でトークボタンが押された際、ユニットのディスプレイにはマイクオン/ロックアイコンが表示されます。

サブリーダーは常時ブロードキャスト(ソフトウェアプログラミングのみ、LK-1のみ)

☒ **(デフォルト)** この機能が有効 (チェック入り) の場合、リーダートークバックモードに関わらず、グループ内のサブリーダーは常時ブロードキャスト可能です。これにより、リーダーとサブリーダーはグループに話しかけることができますが、参加者は話すことができません。

この機能が無効の場合、通常のトークバックモードと同様にサブリーダーと参加者ユニットは機能します。

ネックループの互換性(ソフトウェアプログラミングのみ)

☒ **(デフォルト)** この機能が有効 (チェック入り) の場合、出力は接続されたネックループを位相ずらして駆動できます。

☐ チェックボックスをオフにすると、この機能によりユニットは接続されたネックループを同相で駆動できます。

サブリーダーは落ちる(ソフトウェアプログラミングのみ)

☐ **(デフォルト)** チェックがない場合、この機能は無効です。最大数のサブリーダーが有効で追加のサブリーダーが発言を要求した場合、サブリーダーは一人落とされます。

☒ この機能にチェックが入っている場合、機能が有効です。最大数のリーダーが有効で追加のサブリーダーが発言を要求した場合、サブリーダーは自動的に落ちません。話さないサブリーダーはトークボタンを使い自らミュートし、他のサブリーダーに場を譲ります。

LISTENTALK ドッキングステーション (P15～P16参照)

ListenTALK ドッキングステーションは充電器、プログラミングステーション、ユニット保管として機能します。ドッキングステーションを平らな表面にマウントします。電源サプライをドッキングステーションに接続し、ACアダプターに繋がります。(100/240VAC 50/60Hz) ListenTALK ユニットのリーダーと参加者ポケットに追加し、充電とプログラミングを行います。

ドッキングステーションを使用し、ListenTALK グループを作成

リーダーまたはサブリーダーを作成するにはLK-1トランシーバーに赤のリーダークリップを取り付けます。参加者ユニットからはリーダークリップを外します。リーダーユニットをドッキングステーションの赤いポケットに入れます。サブリーダーと参加者ユニットは通常の黒いポケットに入れます。

グループを作成するにはリーダーとサブリーダー・参加者ユニットとペアリングします。ドッキングステーションのペアリングボタンを押します。ペアリングインジケータ点滅し、ペアリング完了後に常時点灯後に消滅します。

ドッキングステーションを使い、グループのペアキーをリセットする

ListenTALK グループのペアキーをリセットするにはユニットをドッキングステーションのそれぞれのポケットに入れます。その後、ドッキングステーションのペアリングボタンを5秒間長押しします。ペアリングとステータスインジケータは点滅し、完了後常時点灯します。

ドッキングステーションを使いListenTALK ステータスを確認

ドッキングステーションのステータスボタンを押します。ステータスインジケータは光り、それぞれのユニットディスプレイはListenTALK ユニットID、グループ番号、バッテリーステータス、シグナルの強さなどの情報を表示します。

LISTENTALK アドバンス機能

複数のListenTALK グループを使用

それぞれのグループはチャンネルが異なります。無制限にグループの作成は可能です。アメリカと日本バージョンでは同時に最大20グループ、ヨーロッパバージョンでは最大30まで同時に作成可能です。ListenTALK グループは1つのグループリーダーと無制限のサブリーダーと参加者で成り立ちます。ListenTALKは独立したペアキーで暗号化され、同時通訳やツアーガイドが必要な施設に最適です。詳細はP27をご確認ください。

充電とバッテリー交換

ユニットはドッキングステーションで充電できます。個別にユニットを充電するときはUSB充電器をマイクロUSBポートに接続してください。

アルカリ乾電池を使用している場合、電池を取り換えてください。バッテリーボタンを押し、下側にバッテリードアをスライドします。

ListenTALK ファームウェアアップデート

ListenTALK ユニットファームウェアのアップデートはListenTALK Software Suiteから確認できます。

LISTENTALK SOFTWARE SUITE

ListenTALK Software SuiteはWindowsパソコンでListenTALK のシステムプログラムやステータスチェックを行えます。インストール後、ソフトウェアはパソコンのUSBポートに接続されたドッキングステーションまたはトランシーバーを自動的に接続します。

ListenTALK Software Suiteの機能にはセットアップ、在庫管理、グループ作成、グループの名づけなどが行えます。ヘルプ項目も充実しています。

LISTENTALK アクセサリー

ListenTALK システムが多用途に対応できるように様々なアクセサリがあります。全リストはListenTALK ホームページをご覧ください。

Docking Station Case 16

Docking Station Tray 16と同等の機能をコンパクトで移動可能な形に変えました。

充電器

ドッキングステーションのプログラミング機能が必要でない場合は、1ポートまたは4ポートのUSB充電器を用意しています。

ヘッドセット

騒音下でも静かな現場でも使用できる数種類のヘッドセットを用意しています。トランシーバーはヘッドセット/マイクロフォンポートで他社メーカーのマイクロフォン付き有線3.5mmイヤフォンも使用できます。ListenTALK トランシーバーは内蔵のマイクロフォンを持ち合わせ、参加者が静かな環境で使用できます。

他アクセサリ

スペアのリチウムイオン電池やアルカリ乾電池用バッテリーケースとトランシーバー保護ケースなどがあります。

LISTENTALK APPLICATIONS

ツアーガイドシステム

ListenTALK システムは博物館や工場見学などツアーガイドが必要な施設で最適なシステムです。P24の通りにグループを作成します。リーダーのトークボタンでトークとミュート間をトグルします。参加者（LK-1のみ）のトークボタンを押すとリーダーまたはグループ全体に発言できます。リーダーの選択によりトークバックモードは変更できます。（P26参照）

リーダーとサブリーダーがいるツアーガイドシステム

2人目のリーダー、サブリーダーは複数のリーダーが必要なツアー、教室などグループ全体に話しかける場面が適しています。赤いリーダークリップをトランシーバーに取り付け、リーダーとペアリングし、サブリーダーを作成します。（P24参照）リーダーはグループ名、ペアキーとトークバックモードを管理します。サブリーダーはトークボタンでトークとミュート間をトグルします。サブリーダーは追加のサブリーダーや参加者とペアリングが行えます。ペアリングによりグループに追加することができ、リーダーから受け継いだグループ名とペアキーを共有します。

トレーニングとコラボレーション

複数のサブリーダーがいるListenTALK システムは企業やスポーツでのトレーニングに最適です。ノイズキャンセリング機能付きのマイクロフォン搭載ヘッドセットを使用すれば騒音下でも使用でき、トークバックモードも自由に設定できます。（P26）

同時通訳

言語の壁がある場合、同時通訳のグループを作成し、同じような言語を話す個人間の理解とコミュニケーションを促進するために、複数の同時通訳グループを設定することが望ましい場合があります。

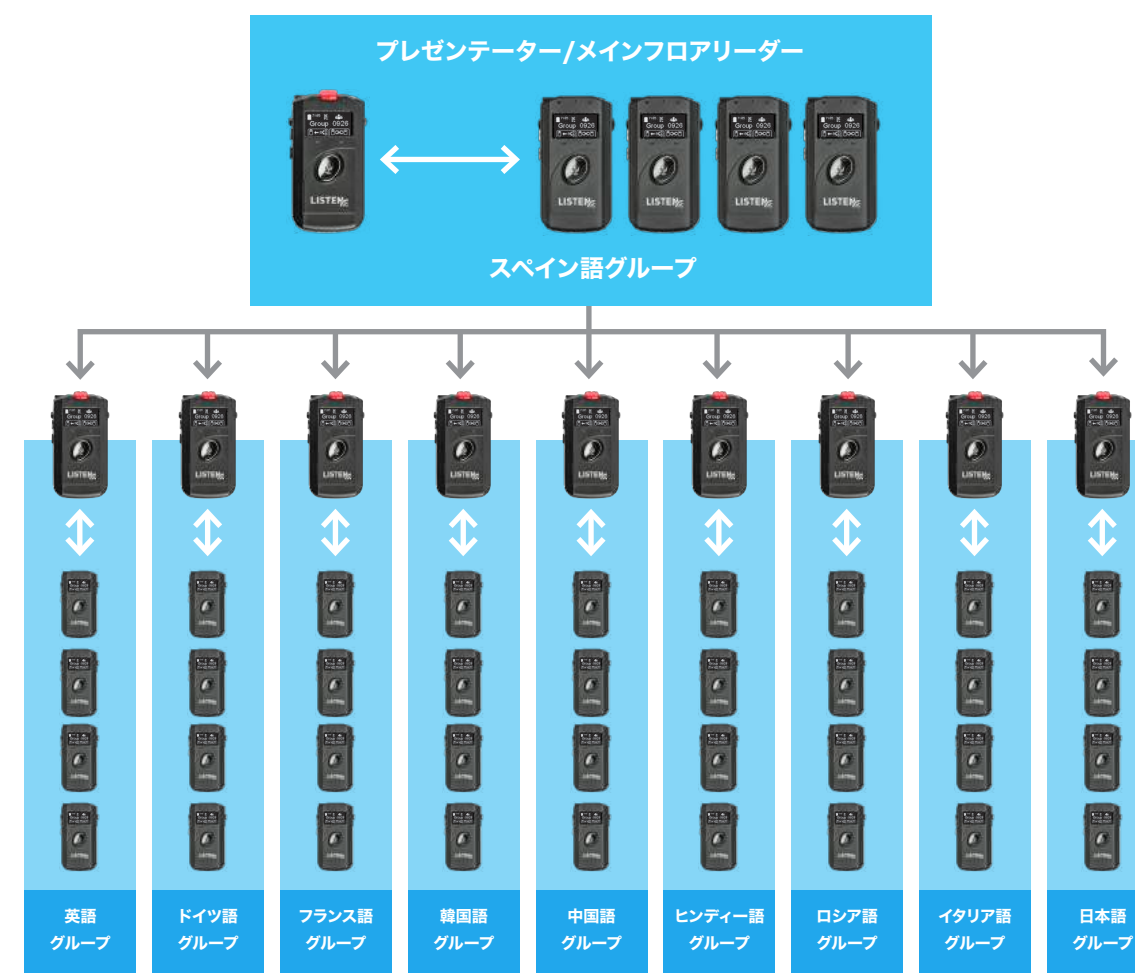
この使用方法の場合、アメリカと日本バージョンでは最大20グループ、ヨーロッパバージョンでは最大30まで同時に作成可能です。1プレゼンター/メインフロアグループと最大19の同時通訳者がリーダーのグループを作成できます。（図参照）

複数のグループが作成された時、それぞれの同時通訳グループのリーダーユニットはプレゼンター/メインフロアリーダーとペアリングされている必要があります。この手順が完了後、プレゼンター/メインフロアの音が同時通訳リーダーユニットのヘッドセットから聞こえます。同時通訳した内容はヘッドセットマイクロフォン経由で同時通訳グループに伝わります。

ListenTALK の別々のグループの作成方法はP24を参照してください。ListenTALK Software Suiteでは” Floor” 、” Spanish” 、” English” などグループに個別の名前を付けられます。

同時通訳リーダーユニットの作成手順:

1. メインメニュー（P29参照）もしくはListenTALK Software Suite経由で同時通訳リーダーユニットの同時通訳をアクティベートします。
2. プレゼンター/メインフロアリーダーユニットと同時通訳リーダーをペアリングします。ユニットは手動でNFCペアリング（背面をタッチ）またはドッキングステーション（P15参照）またはListenTALK Software Suite経由の3方法で行えます。
 - a. プレゼンター/メインフロアリーダーユニットがペアリングを行います。プレゼンター/メインフロアリーダーの右ソフトボタンを長押し、ペアリングモードにします。その後、同時通訳リーダーユニットにする予定のユニットと背面をタッチし、ペアリングを行います。ペアリングが完了後、同時通訳リーダーは音を鳴らし、同時通訳アイコン  をディスプレイに表示します。



合計20グループ：1プレゼンター/メインフロア、最大19同時通訳グループ

 双方向可能
 単方向可能

メモ: もし同時通訳リーダーユニットがプレゼンター/メインフロアユニットの電波が届かない場所に行くと音を拾わなくなります。もしこのような状況になった場合、 と同時通訳リーダーユニットに表示されます。同時通訳リーダーはプレゼンター/メインフロアユニットの電波が届く範囲に移動・再同期するように促されます。

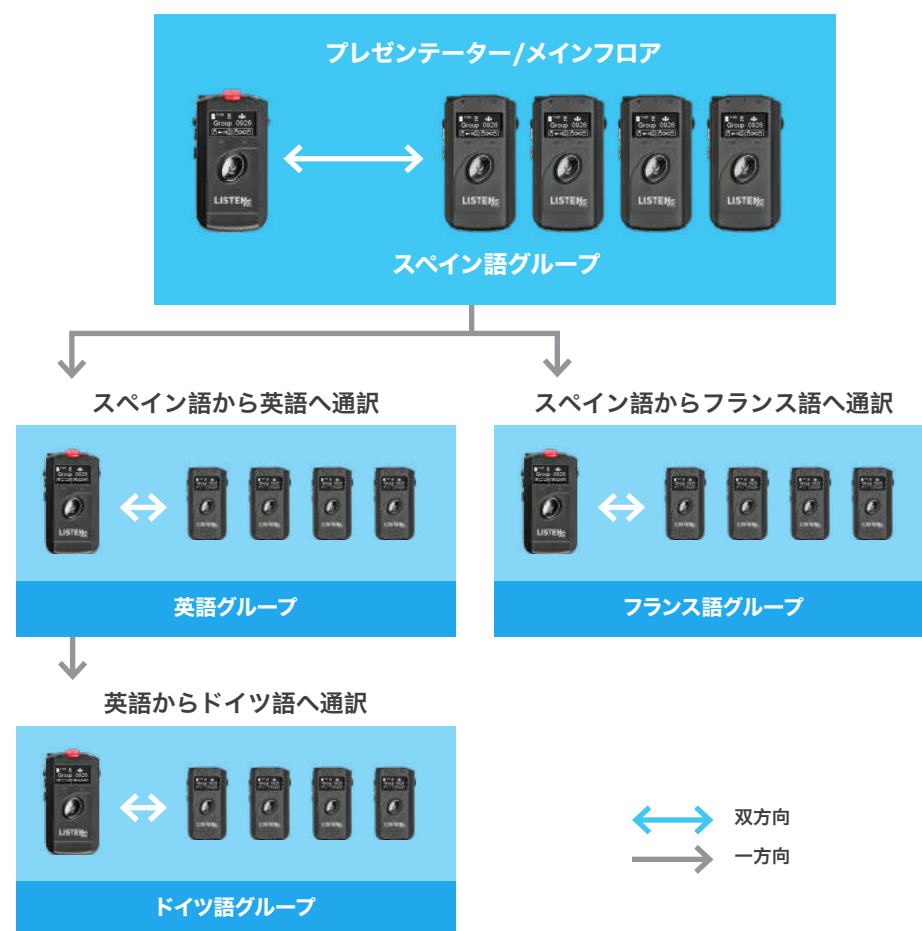
同時通訳リーダーが電波の届く範囲に戻った後、右ソフトボタンを押し 再同期します。再同期中は約10秒間音声が届きません。

同時通訳リーダーユニットが意図的に場所を移動した場合、同時通訳リーダーユニットとそのグループは通常通りコミュニケーションが取れます。

電源ボタンを押すと同時通訳リーダーユニットのスクリーンが  からメインスクリーン  間をトグルし、トークバックモードを選択できます。同時通訳リーダーユニットがプレゼンター/メインフロアと再度合流する場合、同時通訳リーダーが電源ボタンを押し、再同期  スクリーンをトグルします。その後ソフトボタン  を押し、再同期します。

2層通訳: 同時通訳リーダーユニットは2層深くまでしか使用できません。つまり同時通訳ユニットは同時通訳ユニットにペアリングできます。下記図を参照してください。これにより同時通訳は柔軟性を持ちます。下記のようにドイツ語の通訳者はスペイン語ができないので英語からドイツ語に通訳することしかできません。

下記例ではドイツ語通訳リーダーユニットは同時通訳機能を有効にし、英語同時通訳リーダーユニットにペアリングを行います。ペアリング完了後、ドイツ語通訳者は英語の音声をヘッドセットで聞き、ドイツ語に通訳された内容をヘッドセットマイクロフォンでグループに話します。



ワイヤレスインターカム

複数台のListenTALK を使用し、簡易ワイヤレスインターカムとしてイベントプロダクション、スポーツの現場、トレーニング、コラボレーション、ツアー、工事現場などで使用できます。ListenTALK グループを1つのリーダーユニット、他すべてをサブリーダーユニットとして設定した場合、ワイヤレス全二重インターカムとして使用できます。

リーダーユニットまたはサブリーダーのトークボタンはトグルです。一度押しトーク状態にし、もう一度押すことによりミュートになります。これによりリーダーとサブリーダー（両方トークモードの場合）でワイヤレスの全二重会話ができます。サブリーダーはトークボタンをトグルすることにより全二重会話をやめることができます。

もし2人目のサブリーダーがトークボタンを押した場合、会話に参加できます。（最大人数：リーダー1人、サブリーダー2人）もし3人目のサブリーダーがトークボタンを押すと最後に会話したサブリーダーは残り、もう一人のサブリーダーは自動でミュートになります。これにより新しいサブリーダーは全二重の会話に加わることができます。自動でミュートされたサブリーダーはヘッドセットから短い電子音が鳴り、ミュートになったことを知らされます。もう一度会話に加わる場合は再度トークボタンを押してください。他のサブリーダーが聞いている状態で複数のサブリーダーはリーダーと会話することができます。

この機能を有効にする場合、リーダーは左ソフトボタンを使用し”Group Mode”を選択します。P26のリーダーとサブリーダーのオペレーションを参照してください。

LISTENTALK システムトラブルシューティング

電池がありません

ListenTALK が充電済みまたはUSB充電器と接続されていることを確認してください。ユニットの上部にある電源ボタンが押されて電源がONになっていることを確認します。もしそれでも電源が入らない場合は電池が正しく入っていることを確認し、予備電池も試してください。

オーディオがありません

ListenTALK が他の参加者やリーダーと同じグループであることを確認します。音量が最低25%以上になるように設定します。ヘッドセットが最後まで押し込まれていることを確認します。

オーディオが歪む

ユニット音量が大きすぎないことを確認します。大きすぎると歪みます。ヘッドセットが最後まで押し込まれていることを確認します。別のヘッドセットで試します。

ListenTALK でシグナルを拾いません

ListenTALK リーダーと参加者が同じグループメンバーであることを確認します。

ListenTALK でシグナルを拾えますが、調整されていないように聞こえます

ListenTALK リーダーと参加者を確認し、同グループメンバーも確認します。リーダーに近づきます。

電池が充電されません(充電式ListenTALK ユニット)

ListenTALK バッテリードアから絶縁シートを取り除いたことを確認します。電池が正常に入っていることを確認します。ユニットがドッキングステーションポケット内に正常に入っていることを確認します。

USB充電器を使用の場合は、USBケーブルを差し替えてください。充電器が正しくプラグに入っていることプラグに電気が供給されていることを確認します。もしそれでも使用できない場合は電池を予備電池に取り換えてください。

ListenTALK ユニットのUSB充電器に接続したい

通常のUSB充電器をListenTALK ユニットの横にあるマイクロUSBコネクタにケーブルを差し込みます。

ドックコミュニケーションエラー

ドッキングステーションはエラーが起きた場合、ListenTALK ユニットでエラーメッセージを5秒間表示します。メッセージはエラーコードを表示し、ポケットがコミュニケーションエラーを起こしていることを示します。ドッキングステーションは赤色LEDを素早く点滅後、黄色く点滅し、エラーコードとポケット番号を示します。

このエラーが起きた場合、エラーを起こしたポケットを点検します。壊れたピンを確認し、ユニットを再度ポケットに入れます。その後もう一度同じ操作を繰り返し、再度エラーが起きるかを確認します。エラーが起きた場合、ユニットを別のポケットに移し再度操作を繰り返し、ユニットまたはポケットどちらのエラーか断定します。詳しくは弊社にお問い合わせください。

エラー2（ユニットが動かされる）-アップデート中にユニットを動かした。

エラー3（ペアリング失敗）-不良またはリーダーポケットNo1にユニットがありません。

エラー4（読み取り失敗）-ユニットから読み取りができません。

エラー5（書き込み失敗）-ユニットに書き込むことができません。

コンプライアンス情報

アメリカとカナダでの使用に関して

FCC

このデバイスは、FCC規則のパート15に準拠しています。操作には、次の2つの条件があります。（1）これらのデバイスは有害な干渉を引き起こさないこと。（2）これらのデバイスは、望ましくない操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れる必要があります。

内部にユーザーが修理できる部品はありません。Listen Technologiesによって認められていない変更または修正を行うと、この機器を操作するユーザーの権限が無効になる場合があります。

この機器はテスト済みであり、FCC規則のパート15クラスBデジタルデバイスの制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅設備での有害な干渉に対する合理的な保護を提供するように設計されています。この機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合は、機器の電源をオフにしてからオンにすることで干渉を引き起こすかどうかを判断できます。ユーザーは、次の1つ以上の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- ・受信アンテナの向きまたは場所を変更します。
- ・機器と受信機の間の間隔を広げます。
- ・受信機が接続されているものとは別の回路のコンセントに機器を接続します。
- ・販売店または経験豊富な技術者に相談してください。

FCCとIC注意

- ・ FCCIDおよびICISED認定通知は、バッテリーコンパートメント内または製品メニューにあります。
 - 製品メニューには音量下げボタンと電源ボタンを同時に押すことによりアクセス可能です。
 - FCC IDと IC ISEDは音量下げボタンを長押しし” About” メニューを表示後、チェックマークソフトボタンを押します。

RF被曝警告

- ・ この機器は、制御されていない環境で身体に装着されたポータブルデバイスに対して定められたFCCおよびICの放射線被曝制限に準拠しています。
- ・ この機器は、手持ちで安全に着用して操作することやストラップや衣服にクリップで留めることで身体の横で操作することできます。

ICES

このデバイスはICES-003クラスBに準拠しています。

このデバイスは、カナダ産業省のライセンス免除RSS標準に準拠しています。操作には、次の2つの条件が適用されます

(1) (1) このデバイスは干渉を引き起こしてはいけません。

そして

(2) このデバイスは、デバイスの望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む、あらゆる干渉を受け入れる必要があります。

EUで使いのユーザー

このデバイスは、1880 MHz～1900 MHzの周波数帯域で動作するDECTポータブルトランシーバーであり、最大電力<+ 20dBmEIRPを出力します。

このデバイスは、13.56MHzで動作し、最大電界強度が<10 dBuA / m未満のNFCも使用します。

EUのほとんどの国で使用可能です。

このデバイスは、RED指令2014/53 / EUに従って評価され、RF曝露制限に準拠していることが確認されています。

シリアル番号、製造元、および追加の規制情報については、デバイスのバッテリーの下のパッケージコンパートメントにある製品ラベルを参照してください。

捨てる場合は販売代理店もしくはメーカーにお問い合わせください。

下記に準拠しています。

WEEE Directive (2012/19/EU)

Battery Directive (2006/66/EC & 2013/56/EU)

捨て方

製品、電池/充電電池（該当する場合）、および/またはパッケージの取り消し線付きの車輪付きピン（国の要件に応じて刻印があります）の記号は、これらの製品が運用終了時に個別に廃棄する必要があることを示しています国内法に準拠した寿命。梱包材の廃棄については、お住まいの国で適用される廃棄物の分別に関する法規制を遵守してください。

電子機器、電池/充電電池（該当する場合）、およびパッケージを分けての廃棄は、再利用とリサイクルを促進し、たとえば、これらの製品に含まれる潜在的に危険な物質が悪い影響を与えることを阻止します。これにより、環境と公衆衛生の保護に重要な貢献をします。

右側に3つのアイコンを配置します。リサイクル、バーが下にあるホイール付きピン、およびバーがないホイール付きピン。

EU適合宣言

Radio Equipment Directive 2014/53/EU



RoHS 3 Directive EU 2015/863

これにより、Listen Technologiesは、無線機器タイプListenTALKトランシーバーLK-1-E0、ListenTALKレシーバープロLKR-11-E0、およびListenTALKレシーバーベーシックLKR-12-E0が以下に準拠していることを宣言します。

Radio Equipment Directive 2014/53/EU

RoHS 3 Directive EU 2015/863

EC適合に関するの宣言は下記アドレスから全文を確認できます。

www.listentech.com/support/declaration-conformity-documents/

保証

Listen Technologies社LK-1、LKR-11、LKR-12は通常、5年間保証します。

保証の確認は弊社までお問い合わせください。

連絡先



本 社 〒107-0062 東京都港区南青山 3-3-15 MTC ビル

TEL : 03-5413-4611 FAX : 03-5413-4618

大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 3-8-15 EPO 新大阪ビルディング 903

TEL : 06-6101-2822 FAX : 06-6101-2823

Mail. inquiry@mtc-japan.com

<https://mtc-japan.com>

LISTEN
TECHNOLOGIES



本 社 〒107-0062 東京都港区南青山 3-3-15 MTC ビル

TEL : 03-5413-4611 FAX : 03-5413-4618

大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 3-8-15 EPO 新大阪ビルディング 903

TEL : 06-6101-2822 FAX : 06-6101-2823

Mail. inquiry@mtc-japan.com

※ 記載の商品/ブランド名やロゴは各社の登録商標です
※ 製品の外观・仕様は予告なく変更されることがあります 2021年5月現在 Ver1.1

<https://mtc-japan.com>